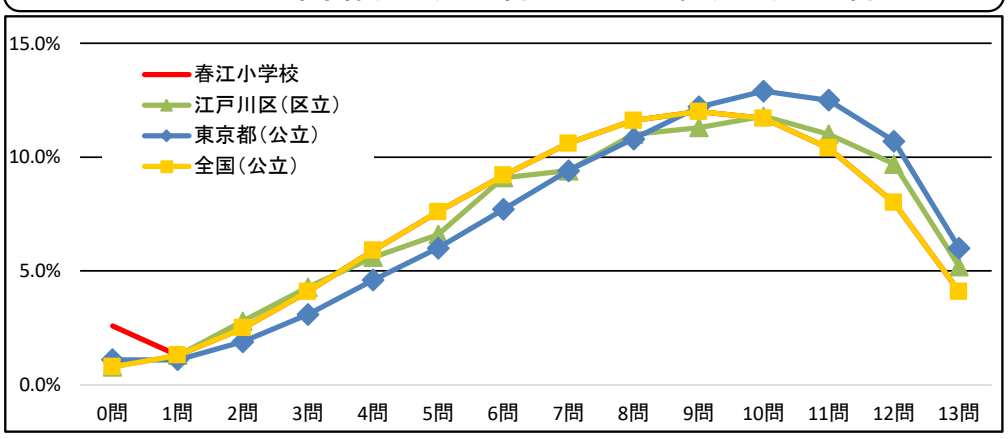
令和8年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【国語】春江小学校　別添資料②－1

正　答　数　分　布

平均正答数

春江小学校：7.4問　　江戸川区（区立）：8.1問

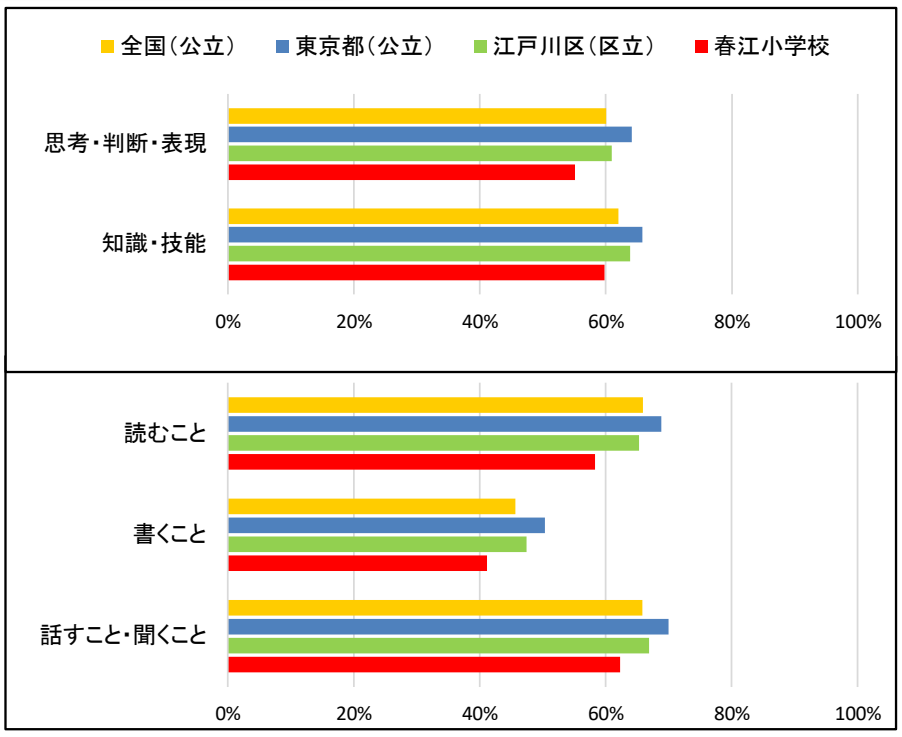
東京都（公立）：8.4問　　全国（公立）：7.9問



【平均正答率の差】

春江小学校	57%
江戸川区（区立）	62%
東京都（公立）	65%
全国（公立）	60.9%
都との差（ポイント）	−8.0

「領域別」の結果

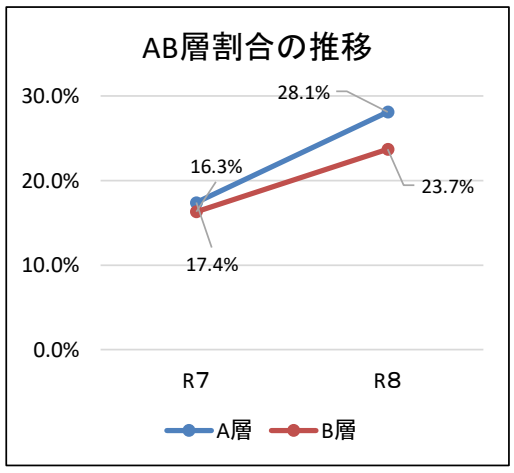


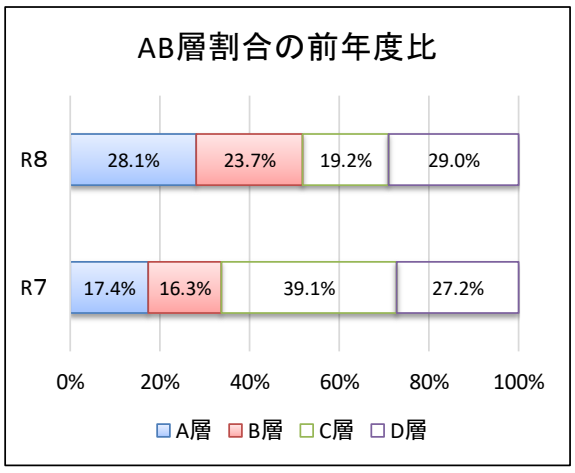
四　分　位　に　お　け　る　割　合　（　都　全　体　の　四　分　位　に　よ　る　）

上位 ◀――――――――――▶ 下位

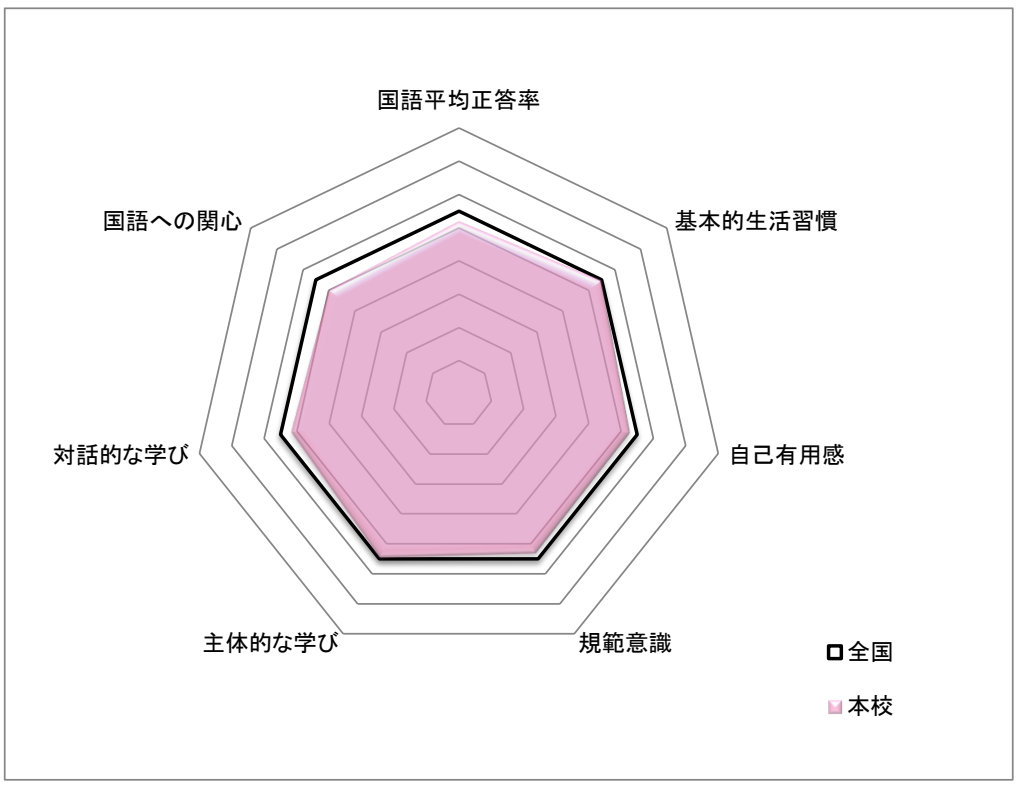
国　語	A層	B層	C層	D層
	10～13問	8～9問	6～7問	0～5問
春江小学校	28.1%	23.7%	19.2%	29.0%
江戸川区（区立）	25.9%	23.1%	29.5%	21.4%
東京都（公立）	42.1%	23.0%	17.1%	17.8%
全国（公立）	34.2%	23.6%	19.8%	22.2%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・国語の平均正答率は、高くないものの、国語への関心は全国平均と比較し、やや高い。
・自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学びについては、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

・保護者会や学年だよりなどで、学習内容や身に付けさせたいことを共有し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。
・家庭内での仕事を分担し、仕事をしたら、子供をほめることで、子供の自己有用感を育てていくことに協力してもらう。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・AB層の割合は、令和6年度と比較し、10ポイント以上下回っている。
・児童の実態や教材の特徴を考え、多様な課題解決の方法を授業に取り入れ、表現活動が活発に行われるようにする。
・文章の読み取りの学習では、どの表現をもとにしてどんなことが読み取れるのかなど、根拠を明確にする指導を行っていくことで、読み取りの能力を高めていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・校内研究の充実　（わかる、できる、楽しい、もっとやりたい）を図る。
・ICTを効果的に活用した授業改善を図る。
・教科担任制による指導（4～6年）・校内研修（春江塾）を実施する。
・ねらいに即したまとめ、振り返りの実施する。

・基礎学力の保障

・ミライシードを積極的に活用する。（授業、朝学習、家庭学習）
・よむyomuワークシートの実施（4～6年）
・江戸川区学力定着度調査の活用（4、5年

・学習習慣の確立

・江戸川っ子study week!での　学習習慣の確立を図る。
・家庭との連携・SNS学校、家庭ルールの徹底を図る。

・AB層の育成

・国語の学習では、教材を通して自分の考えを深める活動を多く取り入れ、表現力を伸ばしていく。また、日常から文章を書く機会を多くもち、内容の構成等を整理して適切に相手に伝えたり、聞き取ったりする力を身に付けていくよう指導する。